

HOSPITALITY



横浜YMCA学院専門学校 作業療法科ニュース

2011年5月17日発行

HOSPITALITY

「ホスピタリティ」とは、互いの命や存在意義を理解し、認め合い、共に生きていくこと、またそれを実践する精神をいいます。私たちYMCAは、そうした精神を身につけた作業療法士を養成したいと願っています。

山元町災害ボランティアセンター支援活動 1年生5名が参加



泥の撤去作業をする1年生

仙台YMCA ボランティア支援センター ボランティアバス派遣

期間:4月28日(木)夜
~5月1日(日)夜

派遣先:山元町災害ボランティアセンター

活動:片付け作業(泥の撤去)

4月28日(木)~5月1日(日)、1年生5名がボランティアバス派遣に参加しました。仙台YMCAボランティア支援センターが協力している、山元町災害ボランティアセンターでの活動で、グループ毎に分かれ、津波被害にあったいちご農園の片付け作業を行いました。休憩の時間を惜しみ、泥の撤去作業に取り組む姿が見受けられました。

5月10日(火)13時30分から行われたOT科



ボランティアバス報告会

の合同礼拝では、参加した5名から活動内容やボランティア体験についての報告がありました。「良い経験が出来た」と話す彼らの今後のボランティア活動に期待したいと思います。



作業療法科 1年 飯田 柊人さん (横浜商科大学高等学校 出身)

私がこのボランティアに参加したきっかけは、募金だけでは本当に被災地の方々役に立っているのかが分からず、目に見える形として役に立っているという実感がほしかったからです。この3日間で私たちに出来ることはほんの少ししかなく、力のなさを痛感しました。今回、いちご農園でボランティアをさせて頂きましたが、現地でお世話になった方々との別れ際、「ありがとう」と見送る姿を見て、被災しているにも関わらず他人を思いやる山元町の方々に感動しました。



作業療法科 1年 高石 雄也さん (私立 横浜商工高等学校 出身)

募金以外にも何かしたいと考えていたので、今回このボランティアに参加しました。作業内容が泥の撤去作業と知り、体力には自信があったので、大きな助けになると思っていました。しかし一日半働いても、約20mの山を1ハウス分も出来ず、初めてボランティアに参加した私には、辛い瞬間でした。被災地への継続的なボランティア活動が重要だと改めて感じました。辛い場面もありましたが、作業中に飛び交う「ありがとう」の言葉や、全員が必死に頑張る姿を嬉しく思いました。

本校は、厚生労働省指定の作業療法士養成施設です。また、WFOT(世界作業療法士連盟)の認定校でもあります。卒業と同時に作業療法士(国家資格)の受験資格が得られます。

横浜YMCA学院専門学校 作業療法科

〒231-8485 神奈川県横浜市中区常盤町1-7 TEL: 045-641-5785 / FAX: 045-664-4018

e-mail: ymgakuin@yokohamaymca.org HP: http://yokohamaymca.ac.jp

